

かなえ

第159号(令和8年1月)

医療法人社団鼎会 三和病院

松戸市日暮7-379 ☎047-712-0202

<https://sanwa-hp.jp/>



医療法人社団鼎会 八柱三和クリニック

松戸市日暮1-16-2 ☎047-312-8830

<https://sanwa-cl.jp/>



12月の矢切地区

今回はよく訪れる矢切の小川近辺をテーマにしました。
矢切の渡し場から土手下に民家と小川があり
夏場になると子供たちがザリガニを取りに来ます。
この小川を坂川方面に向かって歩く。
スケッチはこの川沿いを絵にしています。

野鳥が二羽ここで泳いでいました。
この野鳥が今回のスケッチの中では重要なポイントになっています。
12月は緑も少なく、どこか寂しい風景がこの水鳥で
賑やかになり、
ありがとうございました。
絵、文 菅谷功 2025年12月



「診療報酬制度って何?」

乳腺外科 渡辺 修 院長 外来診療日 三和病院:月曜AM・木曜AM・金曜AM・第1,3,4,5土曜AM

昨年は、地球温暖化による食料・資源不足に加えて、ウクライナ戦争などに起因すると思われるエネルギー価格の高騰、円安による輸入原材料の高騰などからあらゆる物の価格が急騰しました。物価は上昇するが所得は増加しないため、高市政権には生活の安全保障・物価高へのスピード感ある対応が望まれるところです。

病院にとってもこの状態は存続にかかわることで、国立大病院「崩壊前夜」という見出しで新聞や週刊誌、テレビなどで随分報道されたため皆さんも聞いたことがあると思います。国立大学病院長会議は、2025年度の収支見込みとして全国44病院で321億円の赤字となる見通しを示しています。これは大学病院だけではなく、厚生労働省の調査では全国の病院の7割以上が赤字となっていて、かつてない危機感が広がっています。なぜ病院は赤字になるのでしょうか。それには診療報酬制度というのを理解していく必要があります。診療報酬というのは国が決めたいわば「医療の価格表」です。診療報酬は公定価格であって2年に1回の改定が行われますが、病院が自由に決められるわけではありません。例えば、お米がどんなに価格上昇しても病院は診療報酬で決められた報酬しかもらえないため、価格上昇分を病院がもらう報酬に転嫁することはできません。われわれはこの制度の枠内で最善を尽くしかないのでです。診療材料などの消耗品費、給食用材料費、水道光熱費は前年度比で5%以上増加しており、さらに薬剤費の高騰が追い打ちをかけ、大きく病院経営を圧迫しています。さらにあまり知られてないことですが、患者さんに使

用する消耗物品や医療薬剤の消費税は、病院が支払っています。最終消費者である患者さんではありません。消費税分は診療報酬に加味されているとのことです。ですが、そうは思えないし、物品などが高騰すれば消費税も当然高くなるわけです。さらに「医師の働き方改革」や「医局制度の崩壊」に伴う人件費の高騰や人材紹介会社に支払う手数料が大変です。今まででは、患者さんのため、医療のためにという医師の犠牲的精神性によって日本の医療は支えられてきたといつても過言ではないくらい医師は働きすぎていました。医師の過労死の問題がでてきてようやく国が動いたということになりますが、働きを短くしたら(正常にしたら)いくら効率をあげたとしてもやり切れない仕事は誰か別の医師がやることになるか残業代をしっかりつけて残業をすることになるわけです。いずれにしても人件費は増えるのですが、その分は診療報酬には含まれません。また、医師の世界には一般の方々にはわかりにくい医局という制度があります。国家試験に合格したら多くの医師は大学病院の医局(例えば○○大学第一外科など)に所属して研修を受け、関連の病院に出向したり、大学病院に戻って研究をしたりという流れがあります。日本の病院の多くは大学病院からの派遣医師で成り立っていました。特に地方の病院にとっては大学病院医局の存在はとても大きく有難いものでした。その仕組を崩壊させたのは、国が2004年から定めた「新研修医制度」です。この制度により、医局に所属する医師が極端に減少し、最初から民間病院や国公立病院などに所属するようになったのです。事実上人材派遣を担っていた医局が医師不足となったため医師の派遣ができなくなり、地

域に派遣していた医師を引き揚げることとなって地域医療は危機を迎えました。当然の流れとして、医師が足らない病院は民間の人材紹介会社（いわゆる“民間医局”）に依頼することになったのです。これは医師のみに限らず看護師含めた病院スタッフすべてです。どこの病院も医師不足、看護師不足などで人材をこの人材紹介会社に頼むことになるわけですが、成功報酬として年収の20～30%を病院が人材紹介会社に支払うことになります。この支出は医局制度が成り立っていた時代にはなかったものなので、病院経営にとってはとても大きな負担となっています。

このような医療機関の窮状に対して、高市政権は支援策を打ち出しています。今年度の補正予算案で、医療への支援に1兆368億円を計上。このうち、医療従事者などの賃上げ支援と医療機関などの物価高対策支援に5341億円をあてるとしています。これで一時的な“止血処置”は可能かもしれません。日本病院会など6団体は9月に緊急要望を出し、2022年度以降は物価上昇率と診療報酬の改定率が大きく乖離しているとして、本体部分の10%を超える改定を求めましたが、2026年度診療報酬改定の改定率は

全体でプラス2.22%にとどまりました。仮に診療報酬が10%引き上げられれば、約4.8兆円必要になることになり、その財源をどうするのかという問題があるわけです。そうはいっても地域で必要とされる病院が適正な運営ができるように、是非とも時代にあった適正な診療報酬を定めてもらうよう政府は指導力を発揮してもらいたいものです。

三和病院は、こんな中でもわれわれの理念を貫いて個室の差額ベッド代をいただいていません。現行の診療報酬制度の枠内で精一杯の医療を行っています。また、患者さんへの対応をはじめとする医療行為は経営とは別なものなので、今まで通り、いえ、今まで以上に質を高めていけるよう職員一同努力してまいります。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



医師事務作業補助者について

2025年4月から乳腺外科の外来診療体制の変更に伴い、三和病院の診療情報・経営企画室に医師事務作業補助者が配置されました。

医師事務作業補助者は、医師を陰で支える立場にあるので職種名を聞いてもどのような仕事をしているかイメージしづらいかと思います。この場を借りてより多くの方に知ってもらえることを願っています。ぜひ最後までご覧ください。



医師の業務は診察や治療・手術などの「診療行為」だけでなく、それに伴う「事務作業」があります。その中には、診察前の検査などの指示や持参いただいた紹介状に対して当院での経過を報告する返書作成、治療実績などの情報登録と多岐にわたります。医師事務作業補助者は、その事務作業を医師の指示に基づき、代行する役割を担っており、当院では乳腺外科医のみに対応しています。代行したものは医師によって確認と承認を得るため、医学的な判断や診断に関わることはできません。

医師が抱えている膨大な事務作業の一部ではありますが、医師事務作業補助者の専門性を活かしてサポートすることで、医師が診療に向き合う時間を増やすことにつながります。患者様と直接お会いすることはありませんが、「縁の下の力持ち」として患者様がより良い診療を受けられるようにと思いながら、今後も日々業務に取り組んでいきます。

診療情報管理室 担当

鼎会からの お知らせ



休診のお知らせ

三和病院

- 2月6日(金) 内科 風間 啓至 医師
2月19日(木) 泌尿器科 堀内 俊秀 医師
(代診 宮内 嶺医師)
2月27日(金) 整形外科 橋場 大輔 医師

八柱三和クリニック

- 2月25日(水) 内科 神崎 哲人 医師



医療法人社団鼎会への寄付金の ご協力をお願いしております

三和病院開設以来、皆様のご理解とご協力の下、地域に根差した医療活動を運営してまいりました。新しい医療機器の購入や室料差額無料など、より良い医療の提供や患者様の負担を軽減する運用を継続していくために一層の努力を重ねてまいります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。



詳細につきましては下記にお問い合わせください。

医療法人社団鼎会総務課 TEL047-712-0202

三和病院・八柱駅間

シャトルバス運行予定表

八柱駅発			三和病院発		
8時	30	50		40	
9時	10	30	50	00	20 40
10時	30	50		20	40
11時	10	30	50	00	20 40
12時	30	50		20	40
13時	10	30		00	20 50*
昼休み			※土曜日のみ運行 土曜の最終便		
14時	20	40		10	30 50
15時	00	20	40	10	30
16時	20	40		10	30 50
17時	00	20		10	30 45*



※この便は状況に応じて増便いたします。
※交通状況等によって時間通りに運行できないことがあります。
※日曜・祝日・年末年始(12/30～1/3)は運行していません。
※定められたバス停などはございません。
※八柱駅前のロータリーの駐車状況によっては、
交番前に停車できない場合がございます。
その際は、ロータリー内の可能なスペースに
停車致しますので、ご了承下さいませ。